

第189回ギャラリー展



【第189回ギャラリー展のご案内】

年末総選挙のまただ中ですが日常生活の一年を振り返る月でもあります。来年は今年以上に良い年であることを祈っています。

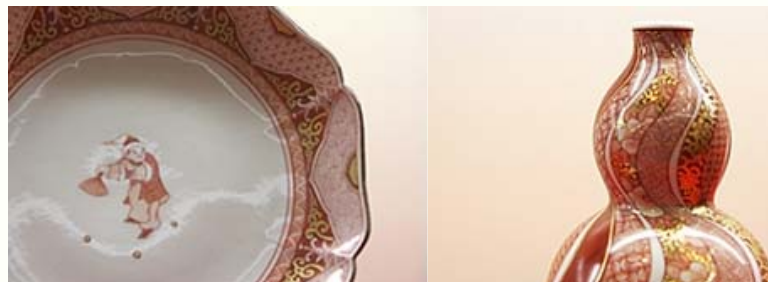
第189回ギャラリー展は、荒尾市在住の村石一成様のご好意により九谷焼と九谷焼佐野窯の福島武山の赤絵作品を展示します。

九谷焼というと赤・緑・黄・紺青・紫の「九谷五彩」のイメージがありますが、江戸後期になると赤を中心とした「赤絵細描」「赤絵金彩」が誕生します。

九谷焼佐野窯の赤絵細描は江戸後期に寺井町佐野の地に陶祖・齊田道開にて創始され、明治から昭和初期まで九谷といえば赤絵と称される程の一大隆盛をみました。しかし現代では数名の絵付師が細々と継承しているにすぎません。

福島武山氏は昭和19年（1944年）生まれ。九谷伝統意匠の一つである赤絵細描（九谷上絵技法の中でも際だって細かい筆致と根気が要求され気の遠くなるような作業の連続）を受け継いで制作されている「赤絵細描」の技術を現代に蘇らせた第一人者です。古典的な龍や鳳凰、唐子や山水から幾何学的文様や網手を組み合わせた現代風の文様までを、その濃淡と繊細な線によって描き出す素晴らしい技術の持ち主です。

少ない点数ですが、龍・鳳凰・幾何学模様などをじっくりと見ていただくと「ぶるっと・」くる感覚が伝搬します。お楽しみください。



第189回ギャラリー展

福島武山 略歴

昭和38年 石川県立工業高校デザイン科卒

平成13年 第25回 伝統九谷焼工芸展 大賞受賞

平成17年 石川県指定無形文化財 九谷焼技術保存会会員に指定される

平成19年 九谷焼伝統工芸会会長就任、石川の伝統工芸展 優秀賞受賞